

## 第4回練馬区独立70周年記念誌編さん委員会会議要録

1 日 時 平成28年2月23日(火) 午前10時から11時30分まで

2 場 所 練馬区役所本庁舎5階庁議室

3 出席者

〈委員〉

斉藤委員長、黒田副委員長(副区長)、漆澤委員、高橋委員、矢島委員、永井委員、企画部長、教育振興部長、区長室副参事(広報戦略担当)、文化・生涯学習課長、情報公開課長

〈欠席委員〉

2名

〈JTBパブリッシング〉

制作担当 1名、営業担当 1名

〈事務局〉

情報公開課

### 【次第】

- (1) 経過報告(各課ヒアリング等)と台割(案)等の確認について
- (2) 販売方法(案)について
- (3) 今後の編さん作業とスケジュールについて
- (4) その他

4 発言内容

〈委員長〉

開会挨拶

計22の課から委員長、JTBパブリッシング、事務局が各所管の事業内容について聴き取りをし、記念誌編さんの素材を集める作業を行ってきたこと、また作業部会でも常に意見交換を行ってきたことを報告する。

編さん経過の報告と作業部会での検討結果を踏まえた台割案などの資料をもととして委員の皆さんが記念誌についての具体的なイメージが持てるように、ここからはJTBパブリッシング担当者が説明をすることとする。

〈JTBパブリッシング〉

22の課の皆さんに、貴重な時間をいただき、ご意見をいただいた御礼と挨拶。

続いて本日の提出資料の確認。

資料1：コンセプトシート

資料2：各課にヒアリングをした際の「ひとことまとめ」シート

資料3：本誌台割案

資料3-2：第1特集 歴史（ヒストリー）エリア分け（案）及びイメージデザイン

資料3-3：第2特集 現在（練馬自慢）基本的展開案

資料3-4：年齢別会議のテーマ、情報収集の方法について

資料4：練馬区独立70周年記念誌販売手法について

資料5：編さんスケジュール案（平成27～29年度）

参考資料：練馬区独立70周年記念誌 仕様・デザインイメージ

資料1は作業部会でコンセプトシートを一部修正し、3番目に歴史（過去～現在）までの通史を追加した。

資料2は各課のヒアリング内容をまとめたもの。聴き取った数多くの内容から読者（区民）が興味を持ちそうな項目、各課の未来に向けた現在の取組や課題をまとめた。

<委員長>

単に行政が発信する情報ではなく、区民目線で興味をもってもらえるような内容、取組として紹介する。この経過報告に関して確認する点がありますか？なければ台割案の説明を。

<JTBパブリッシング>

本誌は家に置いてじっくり楽しむ冊子とし、別冊は外に持ち歩きできる地図を中心とした冊子としたい。

第1特集「歴史（ヒストリー）」については、練馬区を4エリアまたは6エリア、7エリアに分割し、自分の住んでいる地域が、昔どんなところだったのかを知ってもらおう。

今昔写真では、興味深い昔の写真が豊富にあるので、地域ごとに昔の写真と現在の写真が対比出来る内容としたい。

作業部会で、区内をいくつに分けるかの議論をしたが、6エリアに分割した場合、光が丘や江古田が分断されてしまい、地域の魅力を出しにくい。

4エリアに分割した場合には深く掘り下げる事が難しいなどの意見が出ていた。

その後、作業部会の委員より7つ割の提案があったので、今後の作業部会で議論し、地域の魅力が発信できて住民が面白いと感じられるようなエリア分けで作りたい。

第2特集「現在（練馬自慢）」では、練馬らしさ、練馬だからできる事、練馬の現在の魅力を紹介する。練馬区に住んでいるだけでも「すごい」という自慢を取り上げたい。

第2特集のトップは、練馬区の一の魅力である農業から紹介する。

委員長からの情報では、ニュー Yorker の最先端の週末の過ごし方は「農業」だという。

委員長ご発案の「ネリマネーゼ」を是非使用したい。

農業では、練馬大根や小麦のストーリー、貴重な品種のブドウ「高尾」で作られたワインなど、紹介すべき魅力ある内容がたくさんありすぎる。

農業の次には、区内の個性派商店街の取組を紹介したい。

第2特集「現在」の「まちづくり」以降の台割案は各課のヒアリングを基に考えた。

「行政が制作したプランとの違いはあるのか？」という疑問があると思うが、各課の担当者にヒアリングをした結果、区民に是非とも知ってほしいと思える内容が数多くあった。

例えば、「こどもの森」。規制することばかりの公園が主流だが、「自由に穴を掘ったり基地を作ったりすることができる。たき火もOK」何をしても構わない公園はすごいこと。

「大江戸線延伸」は、当初未来の紹介頁で路線を紹介すれば良いと考えていたが、ヒアリングを通じて、新しい駅を作ることの大変さが分かったため、内容を膨らませたい。

東京都内で延伸予定の4路線が競合し、ライバル路線もある。延伸のためには、単に駅を作るだけでなく、地域や地元との連携が必要で、まちづくりのプロジェクトを各地域で開催し、道路計画の策定もしなくてはならない。地域の取組や現在の苦労があったからこそ実現できた新路線であることを10年後の人に知ってもらいたい。

「清掃・リサイクル」では、東日本大震災の際に練馬区が仙台市の瓦礫撤去に協力したことで、仙台市の復興が早まったことを知った。仙台市民の安全、生活環境を早く取り戻すことが出来たのは、練馬区民としてだけでなく東京都民としての誇りだと考える。

行政側からの情報発信や、行政的な書き方ではなく、出版社として区民目線から練馬区の魅力を表現していきたい。

第3特集「歴史（過去～現在）」では「練馬区独立」をキーワードとし、どのように独立に向かっていったかなど、練馬区全体の通史を紹介する。また「よりどりみどり練馬」など、練馬区全体にかかわる取組をまとめたい。

第4特集「未来（ビジョン）」は第2特集の各カテゴリーにある未来の部分をもとめ、マンガで紹介したい。参考レベルだが、各地方都市でも「自虐ネタ」が流行っているので、シニールな画風で作成しても、また今風にしても面白いと思う。

別冊は持ち歩いて楽しめる参加型の記念誌とする。本誌で紹介した内容を地図に落とし込む。この地図を見ながら歩く事で歴史を確認でき、練馬の魅力が再発見できる。また「大人の塗り絵」は自分色に塗る練馬区とし、自分だけの記念誌を作ることが可能となる。

資料3-4 年代別会議のテーマとして、各年代すべてに「練馬の未来について」聞くこ

とを追加した。情報収集の手法は今後作業部会で相談し決定していきたい。

<委員長>

練馬の良いところが他にもあれば、意見を出してほしい。練馬自慢の集大成なので、委員の意見をうかがいたい。

<委員>

行政の事業紹介は「区がします」という行政目線が多いが、本案は現在の取組が進行形で見られ、親しみがある。また、見出しが決まると明確になると思うが、第1特集と第3特集の違いが分からない。

<委員長>

第1・第3両方の性格の違いが分かるように作っていく。第1特集はラフができているので分かるが、第3特集の「通史」はラフが上がっていないので、この段階では仕方ない。

<委員>

練馬区のマニアックな情報がほしくなり、練馬まちづくりセンターのメルマガに登録している。参加できるワークショップや、一步踏み込んだ情報など、まちづくりセンターの情報は面白く、練馬通になる。第1特集は「暮らしと生活」第3特集は「練馬区を串刺し」のイメージ。また、現在の技術で「時層写真」を楽しめるアプリがあるので、今後何かに使えると面白いのでは。郷土愛があふれる本になることを期待する。

<委員>

昭和初期の話だが「朝は饅頭、昼うどん、晩は田んぼの米うまし」と言われていた。その頃は荷馬車で練馬から都心に野菜を持って行き、帰りは桶に尿尿を入れて持って帰った。昭和30年代の子供は「たき火」をしたり「山」で遊んだり、自然が遊び相手。年代別会議で「子どもの頃の遊び」を聞くと「遊び」のトレンドが分かるのでは。

<委員>

台割内で「味噌蔵」の紹介とあるが、この味噌蔵は茨城県から練馬に来て商売を始めた蔵である。昔ながらの製法で作っているのは珍しいことだが、平成になってから練馬に来たので、江戸時代から続いている味噌蔵と誤解しないように。

<委員>

未来に向けて「夢のある街づくり」が70周年のキーワード。第4特集 未来（ビジョン）のマンガ表現に期待する。第2特集 現在（練馬自慢）の防災以降は歴史（ヒストリー）

が引っ張れるか。切り方の工夫も必要で、今の紹介だけではすでに行政が出している。練馬の自慢が見えてくるか。新住民が何を求めるかもあるが、メリハリが整理できるといい。

<委員>

70年間で激変してきた練馬の特徴を出したい。ビジュアル面でも分かるように。細かくやりすぎると食いつきにくい内容となる。るるぶ等の情報誌ではないので、数多く記事内容を載せるのではなく、バランスの取れた見極めとグレードの保持が必要である。

<委員長>

10年ごとの記念誌なので、練馬区の激変状況に加えて、新たな発見も見えてくる「記念誌」にしたい。

<委員>

今住んでいる人、またこれから住む人が本誌を手にするので、練馬区を誇りに思ったり自慢したりできるコンテンツをお願いしたい。第2特集は後半部分に内容を盛り込みすぎているか。第1特集と第3特集（通史）との違いをしっかりと検討してほしい。7つのエリア分けとは？

<委員>

7つのエリアは「都市計画マスタープラン」の考え方である。

<委員>

便利帳の分割は4エリア。

<委員長>

エリア分けについては作業部会にて今後検討して報告する。

<委員>

7つのエリアは今の生活圏や駅を中心に分割したもので、歴史（ヒストリー）で区別が付きやすいか？一般性はまだない。

<委員>

エリア分けは大事なポイントとなる。読み手は地域か歴史か、どちらで捉えるか。

<委員長>

どちらもありだと考える。

<委員>

第3特集 歴史(過去～現在)では、練馬区は23番目に独立している事を意識してほしい。練馬区は全てに遅れてスタートしたが、実は「周回遅れのトップランナー」になっている。

「防災」の特集で、こんなことも取り上げるのか？本当に話題になるのか？防災なら消防団では？

<JTB パブリッシング>

当初、消防団の紹介を考えていたが、震災発生時に瓦礫の分別収集をすることで、住民の安全な生活を早く取り戻せるという話をうかがった。これは消防と同様、とても重要なことであり、区民にも知ってもらいたいと考えた。

「男女共同参画」では「女は家庭、男は仕事」のアンケートを40年間収集しているということである。昭和の高度成長時代から現在まで、考え方の変遷をデータで見せることは、未来に向けても興味深いのでは。

<委員>

このアンケートに関しては練馬オリジナルではないのでは。

<委員>

農業の担い手として、練馬では女性が仕事につく事が多かったのでは。

<委員>

時系列的には社会の事象と同じなので、アンケートをいち早く取り始めた理由、必然性が練馬にあったり、練馬独自のデータが出てくればよいと思う。

<委員長>

販売とスケジュールの説明を。

<JTB パブリッシング>

商品を市販する場合、誰が買ってくれるのかを検討することが重要である。本誌の内容から考えると、いまの練馬区民を中心に、昔練馬区に住んだことがある人、ゆかりのある人が中心になると考えられる。従って、練馬区内の書店を中心に、周辺の主要書店で販売することが効果的である。区内のコンビニでの販売については各本部との交渉によるため、状況によって、販売出来ない可能性もある。

本誌の定価を決定した後、書店との卸値を交渉し送品を行いたい。

JTB パブリッシングは本誌を練馬区からの「仕入図書」扱いとし、弊社から書店へは「委託

販売」とする。「委託販売」とは、送品で売上を計上しても、数か月または数年後、書店から本誌が返品された場合に「返金」するシステムのことである。

入金ごとに練馬区に入金した場合、返品時に返金を求めることになる。練馬区の経理処理上、返金は難しいと考えられるため、送品・販売期間を設定し、一括で精算できる手法を事務局と相談し決定していきたい。アマゾンでの販売は、本誌代金と送料を購入者が入金した後に弊社倉庫から発送する形となる。本誌電子書籍の販売については、デジタル化 (PDF) した本誌をインターネットで販売を行い、ダウンロード数に応じた入金となる。弊社独自の「たびのたね」はデジタル化 (PDF) した本誌をページ単位で販売する。

<委員>

デジタル書籍を販売する場合、アップすることにお金がかかるのか？

<JTB パブリッシング>

アップすることは無料で、断られることはない考える。

<委員長>

今後のスケジュールについて説明を

<JTB パブリッシング>

この台割案に基づき、各課と取材先・掲載物件などの踏み込んだ打合せを行い、3月～4月上旬に台割及び取材先を確定したい。4月中旬から取材を開始し、10月からデザイン組み、平成29年1月に初校をPDFにて提出。4月に再校、7月本誌刷りとなる。注意点として、取材終了後に取材先、掲載物件の変更をする事は出来ないのでご了承いただきたい。取材協力いただいた方々に迷惑をかけるだけでなく、多くの問題が発生するのが理由である。そのため、次回会議で取材先・インタビューする人の決定をお願いしたい。時間があるようであれば、その実とてもタイトなスケジュールなため、今後とも協力いただきたい。

<委員長>

この3～5月が肝となる。どのように進めて行くかは事務局と JTB パブリッシングとで検討していく。本日の内容で進めていくことの承認を確認したため、閉会とする。次回は5月か6月頃の開催予定。

## 5 事務局連絡事項

平成28年度の編さん委員会開催時期については、決定次第委員の皆さんにお知らせします。事務局からは以上です。

以上